

学校生活のきまり

学校生活

1. 始業時間、欠席等の届出

- (1) 年間午前8時35分予鈴、午前8時40分授業開始とする。
- (2) 欠席、遅刻の届出は保護者を通じて電子メール又は電話連絡する。
- (3) 学校への連絡は午前8時から午前8時30分の間とする。
- (4) 早退するときは担任の許可を受ける。
- (5) 登校後は、外出してはならない。ただし、止むを得ず外出が必要な場合は担任の許可を得る。
- (6) 裏門の開放時間は、午前8時40分までとする（休日、休業日は閉鎖）。
- (7) 原則として、登校時間は午前7時30分以降とし、下校時間は午後5時30分までとする。8時40分以降に登校した場合は入室許可書の発行を受ける。

2. 自習時間について

静かに自学・自習し、必要な場合を除いて教室の外に出ない。

3. 服装等について

(1) 制服の基準

ア 本校指定の制服、ボタンを着用する。

夏季及び春季、秋季など合服着用時には本校指定のカッターシャツを着用する。

スカート丈を短くしたり、上衣の着用方法を変えたりしない。

イ 制服の補助着として本校指定のセーター・カーディガン・ベスト（以下「指定セーター等」）というを着用することができる。着用期間は通年とするが、指定セーター等の下は、衣替え期間に応じた制服を着用する。また、補助着は指定セーター等以外認めない。

(2) 通学時には制服を着用する（休日も同様）。また、校舎内では本校指定のスリッパを使用する。

(3) 校章は必ずつける。

ブレザー襟カラーなしのもの：左襟

ブレザー襟カラーありのもの：左胸

(4) 社会通念上他人に不快感、嫌悪感を与える、又は地域住民を含め学校運営にご協力いただいている方々から本校への信頼に影響を及ぼすような身だしなみ（服装、持ち物、パーマ、毛染め、化粧、ピアス、指輪、ネックレス等のアクセサリーを含む）を禁止する。

(5) 冬季、登下校時に防寒着（コート等）を着用してもよいが、上記④の趣旨に反しないものとする。

また、特別な理由がある場合を除き、室内で帽子、マフラー、コート、手袋等を原則着用しない。

4. 携帯電話・スマートフォンについて

(1) 授業中や考査中は電源を切り、鞆の中にしまう。

(2) 考査中の使用や鳴動は不正行為として懲戒の対象となる場合がある。

(3) 他人の画像をはじめ個人情報や他者を誹謗中傷する発言をインターネット上に投稿・掲載する行為は、場合によっては名誉棄損、侮辱、脅迫、業務妨害に問われる可能性があることを認識し、絶対にしないこと。一方、出会い系サイトやその他有害アプリは犯罪に巻き込まれる恐れもあるので、使用を禁止する。

(4) その他、公共の場での使用マナーを守る。

5. 交通安全について

(1) 通学全般について

- ア 適正な乗車券（定期券）の使用、交通マナーや交通法規を遵守し、学校に届けた手段で通学する（通学手段・経路等を変更したい場合は事前に担任に申し出る）。
- イ 万一事故などに遭遇した場合は、その場で適切な処置を取り、その後速やかに保護者、学校及び警察に連絡する。また登下校時、事故やトラブルにあった場合は、すみやかに担任、又は生活指導部に報告する。
- ウ 乗客・通行人・自動車などの迷惑になるようなことはしてはならない。

(2) 自転車通学について

- ア 自転車で通学しようとする者は、生活指導部に届け出をし、許可を受け、許可ステッカーを通学時に使用する自転車の確認できる位置(後部泥よけ等)に必ず貼付しておく。
 - ・ 自転車は、指定された駐輪場に駐輪し、必ず施錠する。
 - ・ 自転車通学を許可された者及び自転車を利用する者は、必ず「自転車損害賠償保険等」へ各自が加入する。 ※平成28年7月に大阪府条例で加入が義務化されました。
 - ・ 雨天時は傘を使用せずレインコート等、両手で自転車を運転できるようにする。
※平成27年6月より道路交通法が一部改正され、このような行為も違反・罰金等の対象となっています。
 - ・ 携帯電話（スマートフォン）を使用しながら、イヤホン等で音楽を聞きながら運転しない。
 - ・ 並行走行しない。
- イ 自転車の貸し借りはしない。
- ウ 2人乗りは絶対にしない。

(3) 単車・自動車について

- ア 単車、自動車による通学及び制服単車乗車は禁止する（懲戒の対象）。
- イ 免許の取得に関しては保護者とよく相談しておく。

6. 下足ロッカー・所持品、盗難防止について

- (1) 学校へは不必要な現金を持って来ない。
- (2) 現金や貴重品は、常に身につける等自分で責任をもって管理する。
- (3) 体育授業や学校行事などで、止むを得ない場合は、授業担当者や担任に預ける等、管理を確実にする（教室、更衣室等に放置してはならない）。
- (4) 必要な場合以外には、ロッカー付近・自転車置場・更衣室・保健室などに行かない。
- (5) 金品の紛失・盗難があれば、直ぐにクラス担任又は生活指導の担当者に届け出る。
- (6) 下足用個人ロッカーは常時施錠し、ロッカーの上等に私物を放置しない。下足用個人ロッカーは学校が貸与しているものであり、ステッカーの貼り付けや落書き等しない。万一破損させた場合の修繕費等は、実費で負担する。
- (7) 所持品には学年・組・名前を記入する。

7. 懲戒について

法令や学則の中に、「校長は、教育上必要があると認めるときは、生徒に懲戒を加えることができる」と規定されている。その懲戒には、退学、停学及び訓告の3種類があり、そのうち次のような場合には、懲戒処分に該当する場合があるので、心得ておく。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他生徒としての本分に反した者

・具体的な事例

飲酒、喫煙（酒類・喫煙具所持や同席を含む）、試験の不正行為、暴行行為、恐喝、窃盗、器物破損、賭博行為、いじめ・いやがらせ、自動車・単車通学及び制服単車乗車、危険行為、その他秩序を乱す行為など、学校運営や学校生活に支障を来す問題行動など。

8. 保証書及び確認書等の提出について

入学を許可された者は、誓約書、確認書を 月 日に担任に提出する。

ただし、出願時以降に転居した人は、新しい住民票の写しも提出する。

また、確認書にある「規則」とは、学則をはじめ学校生活を送るうえで定められた「学校生活のきまり」など学校で決められた様々な「きまり」のことである。

この学校生活のきまりは、令和5年12月1日から施行する。

S N S における情報発信に関する注意喚起

L I N E、X、Facebook、インスタグラム等のソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下、S N S）は、人と人とのつながりをサポートする手段である反面、著しく人権を侵害する悪質な利用が問題となっています。他人への中傷などの書き込みを始め、問題が発生した場合は、サイトの閉鎖手続きや警察との連携を行うことがあります。

S N S への情報の掲載は完全に消すことができません。悪意のある人が情報をコピーし悪用する可能性があるからです。現在、S N S を利用している人は、このような危険が生じる可能性がある個人情報や人権侵害につながるような投稿などを削除することを強く勧めます。

また、S N S を利用している人や今後利用しようと考えている人は、以下の注意事項を理解しておいてください。もし、個人情報を掲載する場合は、自分自身が犯罪等の被害に遭わないか、他人のプライバシーを侵害しないか、他人又は団体の名誉を傷つけたり損害を与えないか等を考慮してください。

S N S 上に個人情報を掲載する際の注意事項

1. 自分自身の個人情報（名前、住所、電話番号、メールアドレス、通学している学校名、顔や場所が特定・判別できるような記述や画像および映像など）の掲載によって生じる危険を理解し、掲載する個人情報は必要最小限に留める。
 2. 他人の個人情報を本人の承諾なしに掲載しない。
 3. 他人から自分の個人情報の掲載の承諾を求められた場合は、安易に承諾せず、内容を確認し精査すること。
 4. 他人を誹謗中傷するような記述、画像、映像等の掲載はその人の名誉や人権を著しく侵害する行為であるので、絶対にしないこと。
- ※ なお、学校での授業やオンライン授業等において、無断でその様子を撮影したり、撮影した動画や画像を S N S に載せたりすることは本校では禁止しています。

1.～3.の注意を怠ることによって生じる可能性のある危険な例

1. ①自分の住所、電話番号又はメールアドレス等を掲載すると、商品購入の勧誘や架空請求などが郵便、電話又はメール等で届き、場合によっては詐欺などの被害に遭うことがあります。
②自分の氏名及び居住地域名を掲載している場合、自分の不用意な言動（例えば、自分が飲酒や喫煙といった違法行為をしていることを示す記述や画像および映像など）を掲載すると、名前や地域名から個人が特定され、自分の家族の名誉を傷つけることがあります。また、通学している学校名を掲載している場合、上記のような言動を掲載すると、学校の信用を損なうとともに学校関係者（他の生徒、教員、卒業生など）の名誉を傷つけることになります。
③自分の住所、通学する学校名及び自分の画像などを掲載すると、それらの情報を元に悪意のある人物からストーカー（付きまとい）行為を受けるなど、場合によっては犯罪に巻き込まれることがあります。
2. ①他人の個人情報（画像・映像を含む）を無断で掲載すると、その人のプライバシーや人権を侵害するだけでなく、その人を犯罪に巻き込んでしまうなど、1の例に示したような危険にさらされる場合があります。それが原因でその人に損害が生じた場合は、損害賠償（実施に生じた損害額や慰謝料）を請求される可能性があります。
②他人を誹謗中傷するような記述、画像、映像等を掲載した場合、名誉棄損の罪に問われ、損害賠償を請求される場合があります。
3. 他人から自分の個人情報を掲載してもよいかを尋ねられ、これを安易に承諾した場合、内容によっては1の例に示したような危険が生じる場合があります。